

▶編集後記◀ 昭和54年は統計数理研究所の創立35周年にあたる。この時期に彙報の特別記念号を発行しようという意見は、かねてから彙報編集委員会の中にあっただが、決定していなかった。本年度に入りその話は具体化し、所内の会議にもち出して了承された。その骨子は次のようなものである。(1) 彙報第27巻第1号と第2号を合併して創立35周年記念号とする。(2) 所内の全研究員に投稿を呼びかける。ただし依頼原稿でなく自由投稿とする。(3) 締切を11月末にする。(4) 特に研究論文とは限らず論説、総合報告の類も観迎する。

といったものであった。年度当初は原稿の集りが危ぶまれたが、締切近くになると投稿申込みが相つぎ盛況となった。ただ原稿締切の頃には当研究所で国際会議が開かれるなど多忙な人も多く、提出期日を遅らせてほしいという希望の人が相当出て来た。そこで記念号を2回にわけ本巻を“その1”とし次を“その2”とすることにした。この記念号の各巻中の掲載順序は体裁を考えて編集委員会できめたが、1, 2の何れの巻にあるかは、以上のような事情で原稿の出来あがりの早い遅いに依るもので編集委員会できめたものではない。近時研究が益々国際的になって来たこともあり、ともすると研究者が日本語で書くことを憶怯がる傾向があるのではないかと危惧したが、この記念号の編集を通じて感じた限りではそれは全くの杞憂にすぎないと思われる。今後も本誌を充実したものにするため所内外の皆様の一層の御協力をお願いする次第である。

(樋口伊佐夫記)